

都道府県・ 指定都市番号	59	都道府県・ 指定都市名	京都市	研究課題番号・校種名	2 (4) 小学校
				領域名	E S D
研究課題	学校全体で取り組む研究課題 (4) E S Dを学校全体で体系的に推進するための教育課程の編成, 指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
指定年度	平成 28 年度～平成 29 年度				
学校名 (児童・生徒数)	<small>ふりがな</small> 京都市立朱雀第四小学校 (289人)				
所在地 (電話番号)	〒604-8482 京都府京都市中京区西ノ京笠殿町164 (075-841-3204)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=103305				
研究のキーワード	<input type="checkbox"/> 協働的問題解決学習 <input type="checkbox"/> マトリクス (単元構想図) <input type="checkbox"/> あかしやモデル (児童の思考を可視化するモデル) <input type="checkbox"/> ルーブリック評価 <input type="checkbox"/> あかしや (エネルギー) 環境プログラム・ESD カレンダー				
研究結果のポイント	<input type="checkbox"/> 実践につなげる「マトリクス (単元構想図)」 <input type="checkbox"/> 子供のよりよい思考を促す「あかしやモデル」 <input type="checkbox"/> ルーブリック評価の作成による最適な授業設計 <input type="checkbox"/> あかしや (エネルギー) 環境プログラム・ESD カレンダーを活用しての授業展開の構築				

1 研究主題等

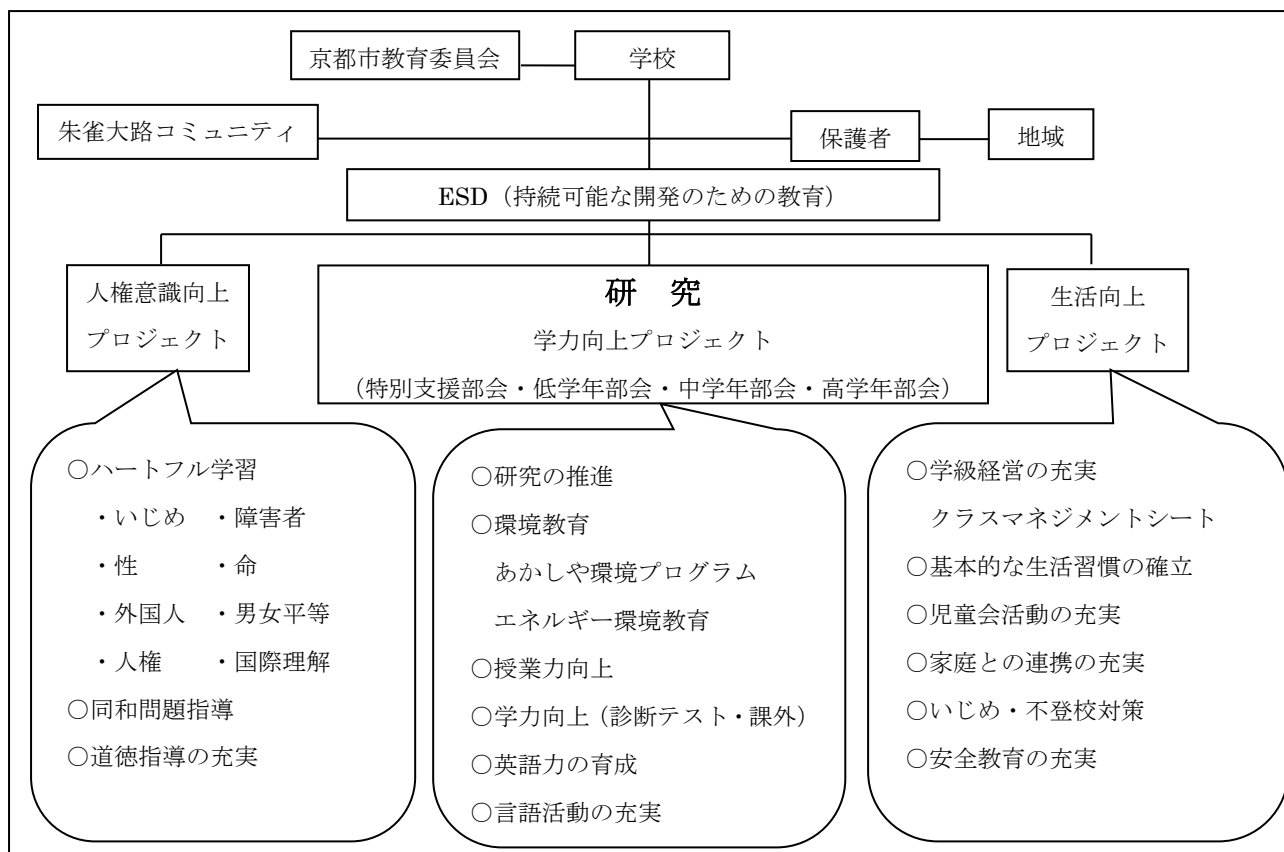
(1) 研究主題

**協働的問題解決を通して, おもいを大切にしながら,
あらゆる角度から, 総合的に深く考える力を育む**

(2) 研究主題設定の理由

本校は20年来, 環境教育に取り組んでいる。その間, 社会は急速に変化し, 環境に関する問題は年々グローバルなものになっている。さらに, 3. 11 東日本大震災以来, 予期せぬことに対して, 対応できる力が見直されている。今後予想のできない不測の事態に対してお互いが協働的に問題を解決できる力をつけていかなければならない。また, 相手の考えを尊重し, 自分の思いだけでなく相手を意識した話合いを行い, 物事を多面的, 総合的, 批判的に考える力が必要である。本校の子供の実態を見てみると, 素直で, 学校のきまりや約束を守り, 落ち着いて学校生活を過ごしているが, しつかりと自分の考えが言えなかったり, 物事に対して受け身の姿が見られたりする。未来を生き抜く力を育てるため, 協働的に問題を解決する授業を通して, 多面的, 総合的, 批判的な思考ができる子供を育てたい。また, 学んだことを社会で実践する教育活動を進めることで, 自ら課題を発見し, 自らの問題として捉え, 解決に向けて実践する力をつけたいと考え, この主題を設定した。

(3) 研究体制



(4) 1年間の主な取組

平成28年度	<前期>	<後期>		
	4月	第1回理論研修会	10月	第6・7回校内授業研究会
		エコ改修校舍活用研修	11月	<あかしやフェスティバル> 地域への発信
	5月	あかしや(エネルギー)環境プログラム ・ESDカレンダーの作成・修正	12月	研究発表会(公開授業/講演会)
	6月	第1回校内授業研究会	2月	<エコフォーラム> 地域や全市への発信
	7月	第2・3回校内授業研究会	3月	年間反省
	8月	第2回理論研修会	<第2回学校評価>	
	9月	第4・5回校内授業研究会		
		<第1回学校評価>		

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

「協働的に問題を解決するために批判的, 多面的, 総合的に考える子供」「人権の尊さを理解し, 自他を大切にすること」「学んだことを, 主体的に実生活で生かすことができる子供」を研究の中で目指す子供の姿とする。そして「子供の思考の流れを明確にした単元構想をする中で, 学習したことを実践できる場を設けたり, 参加体験型の学習を大切にしたりすることが, 主体的な学び, 実践に生かす態度につながるのではないだろうか。」「自分の考えを整理することができたり, 自分の思考を『見える化』する支援になったりするモデルがあることで, 批判的, 多面的, 総合的に考える力の育成につながるのではないだろうか。」の2つを仮説とし, 研究を進める。

(2) 具体的な研究活動

(i) 協働的問題解決学習に向けての「マトリクス（単元構想図）」の作成

子供が、自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的・協働的に探究し、学びの成果等を表現し、更に実践に生かしていけるようにするために、単元ごとに「マトリクス（構想図）」を作成する。「問題解決」の過程を横軸、その内容を縦軸にとり、横軸は「理解→協議（実行）→モニタリング」、縦軸は「話し合い→行動→実生活」として、横3×縦3の9つの要素が満たすように単元を構想し、さらに協議し実際に行動したことがどうであったかを振り返り、それを修正するために、改めて話し合うといったスパイラルの形になるようにする。

協働 ↑	実生活	役割の理解	実践	フィードバック
	行動	行動するにはどのような形がいいのか	行動 (プランの実行)	振り返り ↓ 修正
	話し合い	話を聞く (相手理解)	協議 (行動目標)	振り返り ↓ 修正
	学習課題	理解	協議 (実行)	モニタリング

→ 問題解決

(ii) ハートフル学習の実施

子供の人権意識向上を目指し、年間10回学級活動の時間で実施している「ハートフル学習」においても、子供同士の「つながり」を取り入れた参加体験型の学習を展開したり、多様な立場の人々との「つながり」が体験できる場を用意したりするなどの工夫を行う。

(iii) 本校独自の子供の思考を可視化（見える化）する「あかしやモデル」の活用

低学年は比較的、中学年では多面的、総合的に、高学年では批判的に考える学習を組み込み、その学習の中で、自分の考えを整理したり、思考を「可視化（見える化）」する支援となったりするものを工夫して作成する。学習のねらいや子供の発達段階に応じて、ノートやワークシート、教具・板書にも積極的に取り入れる。

(iv) ルーブリック評価の作成

「学力」「人権意識」「生活応用力」の3観点で、1時間のルーブリックを作成することで、授業のねらいを明確にできるようにしたり、そのねらいの実現に向けて、授業設計をしたりできるようにする。また、子供自身が自己評価できるようにする。

(v) 地域との連携・協働

学校と地域が連携・協働して「人と環境にやさしい町 朱四学区」を目指す取組を進める中で、学校大好き、地域大好きな子供、地域の中で誇りをもって未来を生き抜く力を持った子供を育てる。

(vi) あかしや（エネルギー）環境プログラム・ESDカレンダーの再構築

あかしや（エネルギー）環境プログラムでは、環境（エネルギー環境）学習の進め方や実施のポイント、評価のポイント等、指導の工夫・改善をする。また、ESDカレンダーでは、ESDの視点で人権教育と環境教育を見直し、地域・社会とのつながりや教科との関連を考えて教育課程を再構築する。

3 研究の結果と今後の取組

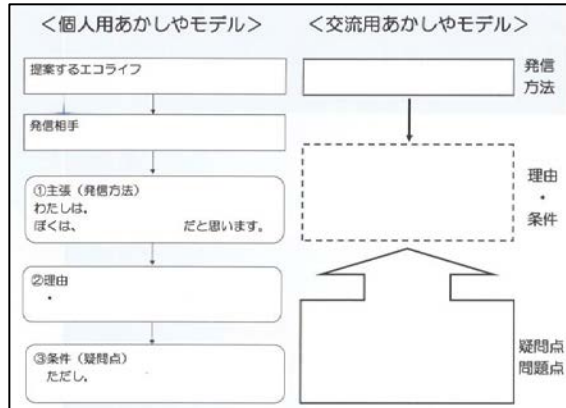
(1) 研究の結果

○実践につながる「マトリクス（単元構想図）」

単元ごとに「マトリクス（単元構想図）」を作成したことで、協議→行動→振り返りという学習の流れができ、子供の主体性や探究力の向上につながった。また、学習したことを日々の実践に生かそうとする態度が見られた。学年によっては、地域と連携して緑化に向けた活動をしたり、エコライフを地域に発信したりする姿も見られた。

○子供のよりよい思考を促す「あかしやモデル」

低・中学年は、あかしやモデルを見せながら自分の考えを説明し、お互いの考えを比べたり、整理したりしながら考えることができた。高学年は、考えを説明し合うだけでなく、理由に対して批判的に考えたり、あかしやモデルから疑問点を読み取ったりして、よりよい思考への改善点や他者へのアドバイスを考えることができた。



○ルーブリック評価の作成による最適な授業設計

＜6年 あかしやモデル＞

ルーブリックを作成したことで、「学力」「人権意識」「生活応用力」の3観点での教師自身の評価基準が明確になり、おのずと授業のねらいも具体性を増した。また、そのねらいの実現に向けて最適な授業設計を行うことができるようになった。

1年 ハートフル学習『いのち』『自分の命を大切に』

生活応用力について	自分自身の命を大切に行動しようとしている。(行動観察)
人権意識について	相手の意見を聞いて、共感しようとしている。(話合いの様子)
学力について	一人一人に命があることを理解している。(振り返り)

○あかしや（エネルギー）環境プログラム・ESDカレンダーを活用しての授業展開の構築

各学年の環境教育の時期やねらい・進め方やポイントなどが書かれている「あかしや環境プログラム」を作成したことで、全ての教員が同じレベルの環境教育を進めることができた。また、年間の授業展開を全て構築した「ESDカレンダー」を作成・活用したことで、指導内容の共通理解を図ることができ、ハートフル学習（人権学習）や環境学習と、教科との関連を明確にして、横断的に同一のテーマで授業を展開することができた。さらに、社会（地域・専門家の方々）とのつながりを密にした学習を展開することもできた。

(2) 今後の取組

更に発展的な教育活動になるように、ESDの視点で見直した環境教育と人権教育を社会・地域との連携を大切にしながら進める。あかしや(エネルギー)環境プログラムやESDカレンダーを修正改善して、学校全体で体系的に社会に開かれた教育課程になるようにしたり、内容だけでなく、資質能力をはじめ付けたい力がより明確になるようにしたりしたい。また、思考の可視化(見える化)に加え、1時間を通した中で、自己の思考の変容も見える「あかしやモデル」にするように探究していきたい。さらに、より客観的で一貫性のあるルーブリックを作成し、子供たちが自己評価をできるものを目指したい。具体的には自分に何が身に付き、何が課題なのかがわかり、(自己認識)新たな自分を目指す励みになるような(新たな飛躍)自己評価を目指したい。